

ほがらか

ほなみだより

第108号

令和5年5月27日

[発行元] 酒田市本楯字前田 127-2

[発行者] 医療法人 宏友会

グループホームほなみ

[問合せ] (0234) 91-7123

祭 4年ぶりに本楯祭りに参加しました!

コロナ禍前は、地域密着型サービスの一環として、見守り隊、地域行事への参加、地域の方々のボランティアの受け入れ、利用者による保育園へ掃除ボランティア、地域のスーパへの買い物等の外出を行ってききました。



地域の方々と触れ合いながら、自分らしく生き活きとこれまでの生活を継続することができません。

久しぶりの地域行事への参加は楽しい時間だったようです。

昔のお祭りの思い出を饒舌にお話ししてくださいました。

今後も、地域の方々と繋がりながら楽しく過ごせるように支援します。

次回は、地区運動会へ参加予定です。

(佐々木沙智)



利用者T様の声

顔なじみの方々久しぶりに会って声を掛けられてこっちが元気もらた。おべっだ人ど会うど嬉しいの。

昔の事を思い出した。ほんとに懐かしい。昔はもっと活気があって、賑わっていたんだよ。

利用者S様の声

久しぶりに祭りに参加して、子供が小さいころを思い出した。家族の健康を思いながらお参りしたものだよ。

奴振りの声を聞くと、ありがたい気持ちになるの。



ほなみ職員による 第12回 認知症コラム

最近「推し」とか「推し活」という言葉をよく耳にします。(推しとは、人や物など自分にとって特別な存在を様々な形で応援する事) 今、プロサッカーチームの応援を通じて要介護の高齢者を元気にする、「Be supporters! (Be サポ!)」が実施されています。介護施設の入所者らをこの“推し活”に巻き込むとで、普段は何かと“支えられる人”になりがちな介護施設の高齢者に、サッカークラブのサポーターになることで“支える人”になって

もらうというものです。
施設の入所者は、皆で協力し推しの選手の名入りうちわや関連グッズ等を作って、試合中継などでチームや選手を継続的に応援します。生きがい作りや重度化防止などの効果が表れやすく、普段はあまり話をしない利用者から「頑張ってる」を貰って感謝している」との声も聞かれたほか、90歳代の寝たきりの利用者が自力で食事をとれるまで回復したケースもあったそうです。誰か(何か)のために“何かをしてあげたい”という気持ちが元気を取り戻すきっかけとなるなら、ほなみの利用者にも「推し活」を推奨していきたいものです。(大瀧 玲子)



お団子作り



柔らかいとこ摘んでの



打って～!



満開の桜の下で



職人技披露!

ほなみ写真館



編集後記
コロナ禍で制限されていた日々から、ようやく以前の様な日常を少しずつ取り戻せるようになってきた今日この頃。様々な催しへの参加や外出、交流など皆さんと楽しみたいと思います。これからも感染予防しながら活動の場を広げ活気溢れるほなみでありたいです。
(高橋 典子)

認知症相談窓口
認知症のことで相談があるご本人やそのご家族友人の方などを対象に相談窓口を設けました。
認知症について相談事がありましたら、(91)7123までご連絡か、ほなみまでおいで下さい。

面会についてのお知らせ
地域の感染状況を考慮しながら予防対策を取り緩和して面会の対応を行います。
★二週間前までに予約受付。午前午後1組まで
★面会は10分以内。ベランダ(雨天時は玄関)
★双方マスク着用、面会の前後に手指消毒。
★面会者は問診票を記入。飲食は禁止。
★不明の点や分からない所などありましたらほなみに問い合わせ下さい。

ある日のほなみ
ある晴れの日の午後、天気もいいので散歩に行きましようという声が聞かれ、近くの神社まで散歩に行きました。周りの風景も見ながら雲ひとつない鳥海山をみて「綺麗だの〜。」とS様。神社についてお参りすると、時間をかけて手をあわせるS様から「長生きするようお願いします。」と嬉しそうに話されS様の思いを感じ、とても温かい気持ちになりました。(佐々木 達也)